В

生瀬谷、

辻さん

グラウンドゴルフで健康促進 珠洲地区親睦グラウンドゴルフ大会

北國新聞北國会珠洲支部

年齢を超えて楽しめるスポーツで 地域活性化に貢献

2000年7月~

●実施地域

石川県珠洲市、鳳珠郡能登町

●活動概要

北國新聞北國会珠洲支部では、 支部会員から募った寄付をもと に、2000年7月から、地域住民 との交流と健康促進を目的とし て、グラウンドゴルフ大会を実 施している。

毎年、平均約300人が参加す るこの大会は、石川県珠洲市と 鳳珠郡能登町で年に1回開催し、 地元に根ざした大会で、今年7 月24日開催で12回目を迎えた。

年齢に関係なく幅広く楽しめ るグラウンドゴルフは、参加者 の健康増進、地域活性化の一助 として定着している。

北國新聞北國会珠洲支部=珠洲市 などの北國新聞系統の19販売所で 組織。奥佐豊作(おくさ・ほうさく) 支部長

■グラウンドゴルフ大会年度別開催状況

回	開催日	会場	参加人数
1	2000.7.23	珠洲市市営グラ ウンドゴルフ場	220
2	2001.7.30	//	250
3	2002.7.28	"	340
4	2003.7.26	"	400
5	2004.8.1	//	400
6	2005.7.24	"	350
7	2006.7.30	"	300
8	2007.7.29	"	340
9	2008.7.27	"	330
10	2009.8.22	"	300
11	2010.7.25	"	350
12	2011.7.24	"	300
슴 計			3,880





第12回大会の様子

北國新聞掲載記事 (第2~12回)



2004年8月2日付朝刊

2009年8月23日付朝刊



2005年7月25日付朝刊

団体きら 宝立制

2006年7月31日付朝刊

2008年7月28日付朝刊



2010年7月26日付朝刊



2011年7月25日付朝刊

プルタブ回収(リサイクル)運動

大阪市朝日会

プルタブ回収で 大阪市すべての行政区の福祉施設に 車いす寄贈

●実施期間2005年9月~

●実施地域 大阪市

●活動概要

大阪市朝日会では、2005年9月から、地域住民への貢献として、プルタブ回収活動を始め、読者から集まったプルタブで車いすを購入、地域の福祉施設に寄贈している。

チラシや朝日会のホームページ、各販売所のミニコミ紙と領収書のお知らせ欄を活用して読者へ報告して協力を呼びかけている。

活動開始から6年、回収した プルタブは9月現在、約14トン (1万3,823キログラム)、36台 の車いすを大阪市24行政区す べてに寄贈している。また、寄 付先から感謝状が贈られた。

>

大阪市朝日会=大阪市の朝日新聞 系統の 27 販売所で組織。大塚玲 (おおつか・あきら) 代表



大阪市朝日会新聞〈特別号外〉 2010年11月発行

■回収協力のPRチラシ

■PRステッカー

[プルタブ回収に御協力を!]

みなさん、日頃より生活の中で何気なく飲きれている缶ジュースや缶ビールの 飲み口のふたの役目をしている小さな「フルタフ」で、大きなリサイクルができ るのを解存和でしょうか?

マルタマはアルミでできており、アルミは両生可能なリサイクル質素です。 反約まで形ジュースや他ピールのなどは同けると低から離れていました。そのため マルタマは安島に進度に指てられてしまい。 窓乱するゴミとなり、歩た海や川・ 山林に捨てられ、それらを勤命たちが思く問題。で飲み込み、 異気になったり、 死んでしまったりという悲しい事に・・・。 そういった環境問題を改善すべく、 今ではアルタマは始から履れない、とても利にかった形へと安わっていきました。 その小さなブルタマか今、大きなモノへのリサイクルができるとても運転な探察 になっています。

念部的理例会(次語的容に及る例例注例例解例)は、このフルケアの回収を率 先して始めています。車椅子 1 台を作るのに必要なフルケアの量は、約 150 万個 (重さにして約800kg) です。

このフルタマの回収を通して、空き缶の放乱も舞くし、低エネルギーで資源を 再利用して、できるだけ多くの率例子に収え、いつも未世話になっていきす地域 の皆様の中で率例子を必要とされる方々にお届けしたいと考えていきす。

マルタマの回収・リサイクルは環境問題やエネルギー問題への取り組みの一助 ななりきす。これらを開理解派を、皆様にも明治力を頂ければ率いです。 ★☆ お集め頂けきすマルタマは少量でも構いません。お店に持参頂さきしても、 ASA スタッフにお渡し頂いても結構です。

詳細など気になる点がござい事したち、どうどが問題に対象くの ASA 9で制金 8下心も、



あさがおネット ASA-GAO-NET 大阪市朝日会

http:www.asa-gao.net



■ 寄贈先からの感謝状 (2008年9月27日)



プルタブ回収車いす寄贈大阪市朝日会



三き缶のプルタブ約3700 10月から1年間かけて集め 対間の読者やASA従業員が が贈った=写真。 車いすは朝 が贈った=写真。 車いすは朝 が記させる。

1日会全体で取り組む。車いすは日会全体で取り組む。車いすを容贈した。 下内の福祉施設に贈っており、 今年で計36台。これで市内全22 区の施設に車いすを客贈した。 車いすを受け取った同市鶴見 区横堤4丁目の鶴見老人保健施 設「ラガール」の下條富美子施設 長(58)は「車いすが不足してい たので助かります」。市朝日会の たので助かります」。市朝日会の たので助かります」。市朝日会の たので助かります」。市前日会の たのであかります」。市前日会の たのであかります」。市前日会の たのであかります」。市前日会の たのであかります」。市前日会の たのであかります」。市前日会の たのであかります」。市前日会の たのであかります」。市前日会の たのであかります」。市前日会の たのであかります」。市前日会の たのであり組む。車いすは

朝日新聞 2010年10月16日付朝刊27面(大阪市内)

■お礼号外チラシ

おかげさまで今年も 車椅子 10 台を 寄贈することが できました。



大阪市朝日会が取り組むプルタブ回収・リサイクル運動で交換した 車椅子10台を、去る平成21年9月に大阪市の各施設・病院へ寄贈して まいりました。

平成19年の2台、平成20年の10台に続き、合計22台になりました。

みなさまの温かいご協力により 集められた空き缶のふた(ブルタブ) がこんなに立派な車椅子へと生まれ 変わり、車椅子を必要とする方々へ と寄贈することができました。

と寄贈することができました。 厚く御礼申し上げます。 これからも皆様からの温かいご協力とご支援を賜りまして ひとつでも多くの車椅子へと変えていけるよう活動の普及 と実現に努めてまいりたいと思っています。

これからもどうぞ宜しく御願い申し上げます。

AZA

朝日新聞サービスアンカー

10カ所に車いす 大阪市朝日会寄贈 大阪市内の朝日新聞販売所(ASA)でつくる大阪市朝日会が11日までに、市内の福日会が11日までに、市内の福日会が11日までに、市内の福日会が11日までに、市内の福日会が1日までは、朝日新聞の読者とASAがは、朝日新聞の読者とASAに業員らが1年かけて集めたブルタブ計約1470点を名と、購入したもの。取り組みは今年で3年目で、の年間は、前日会が出来が、前日会が出来が、前日会が出来が、前日会が出来が、前日会が出来が、前日会が出来が、前日会が出来が、前日会が出来が、前日会が出来が、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、100円には、10

朝日新聞 2009年9月12日付朝刊

32

エコキャップ回収運動

和歌山県毎日会

ペットボトルキャップ回収の収益金で 発展途上国の子どもたちに ワクチンを送る活動

2010年4月~

●実施地域

和歌山県全域、三重県熊野地 方

●活動概要

和歌山県毎日会では、読者と ともに取り組む環境対策として、 2010年4月からペットボトルの キャップを回収し、NPO 法人を 通じて、収益金で発展途上国の 子どもたちにワクチンを送る運 動を実施している。

幅広い読者から参加を募るた め、全販売所に回収ボックスを 設置、PRチラシのポスティング やイベントでの配布、本紙紙面 上での告知を行ったところ、現 在では幼稚園や少年野球チーム 等の団体からの回収に広がって いる。エコキャップ回収数は、8 月末現在、127万3,500個でワ クチン約1,600人分に相当する。

和歌山県毎日会=和歌山県の毎日 新聞系統の64販売所で組織。宮井 良継(みやい・よしつぐ)会長

途上国の子にワクチンを

2010年5月20日付

途上国 の子ど 広がる「エコキャップ運動」 ンを送ろ

毎日新聞 PR版

2011年9:10月

個

途上国の子どもにワクチンを

毎

児童たちが約4万個集めたエコキャップの一部。実際には写真の3倍ほどの分量がある ― 雄湊小で

2010年5月27日付

エコキャップ1万個

ルはがし、洗って

収益金でワ クチ

毎日新聞 2010年10月31日付

イン・和歌山 ●エコキャップを集めている河西中3年1組の生徒たち●収集を呼び掛けている広瀬小の4年生たち

エコキャップ運動」に協力を

河西中や広瀬小も収集

毎日新聞 2010年9月23日付



全販売所に回収ボックス設置

山陽新聞ちびっこクリスマス大会

山陽新聞玉島販売所 所長 小野知男

地域の音楽発表の場を提供 音楽を通して親子の絆を 深める活動を開催

1996年~毎年年末開催

●実施地域

岡山県倉敷市玉島地区

●活動概要

岡山県倉敷市の山陽新聞玉島 販売所所長の小野知男さんは、 1996年から毎年12月に小学校 低学年を中心に子どもとその保 護者を対象にちびっこクリスマ ス会を開催、地域の音楽発表の 場を提供している。

大会は、音楽系学部が中心の 「くらしき作陽大学」が地元・玉 島地区に移転してきたことと、 同地区商工会議所が音楽あふれ る街づくりを掲げたことに呼応 し、音楽を通して親子の絆を深 めようと企画、すでに15回実施 している。毎回の経費約 100 万 円は販売所が負担し、音楽を中 心とした「まちおこし」に貢献し た活動である。

小野知男(おの・ともお)



倉敷市玉島地区の年末1大イベントとして定着した「山陽新聞ちびっこクリスマス大会」。親子を楽しませるだけ でなく、地域の音楽発表の場として幼稚園や保育園、地域のグループから感謝されている=2010年12月23日





ちびっこクリスマス大会の会場は、子どもたちの笑いと笑顔がいっぱい





キャラクターショーや踊りに見入る子どもたち





んぱる子どもに山降新聞

玉島販売所 526-0544

玉島西販売所 528-0466

建井田販売所 522-9436

27 友引

○入場は無料ですが整理券が必要です。 ○数理券ご希望の方は、ハガキに子ども○枚、保護者○枚、 を前、住所、電話を書いて王島販売所へ送って下さい。 ○先龍順とさせていただきます。77/38/22 倉敷市三島 2-5-45



玉島図書館

本部図書館

別表でリンパのコラボ・デュオ (リーベス ブラット) クリス
マス・アドベントコンサート
・ 日春中12月4日(七) 年後 2時年 - 3時年 ・ 金湾書 = リーベス
ブラット ・ 今月 電子で出して目示の第のコンター・
フラット ・ 今月 電子で出して目示の第のコンター・
「日本の本」 ・ 中央 では、「日本の本」 ・ 日本の本 ・ 日春中12月1日 (日本の本) ・ 日本の本 ・ 日春年12月1日 (日本の本) ・ 日本の本 日本の本 日本の本 日本の本

サンタによる抽選も人気のひとつ



12月23日(祝) 13:00開演

アニメ映画「トイストーリー3」

主催 山陽新聞玉鳥販売店

国 玉島文化センター大ホール

7日20 クリスマスソングやおどり

「楽しかった」。プレゼントを手に帰る子どもたち



山陽新聞〈全県版〉

1996年12月24日付

「マイタウン玉島」紙上で塗り絵コンテスト実施

友安作品

まる

78)は「色の使い

院展入選作など15点

「編集委員は住民」地域主体のミニコミ紙で 文化発展へ尽力

徳島新聞井川専売所 所長 近藤一文

住民主体型の編集によるミニコミ紙発行 町の文化発展に寄与

●実施期間

1988年8月~毎月15日発行

●実施地域

徳島県三好市井川町

●活動概要

徳島県三好市の徳島新聞井川 専売所所長の近藤一文さんは、 1988年8月からミニコミ紙「フ レンドいかわ」を毎月15日に発 行(1,350部)し、読者へ無料で 配布している。

紙面は、地域の出来事や短歌・俳句・書道・写真、地元住職によるコラムなど多岐にわたる構成で、地元住民が編集委員となり、住民主体型であることが特徴である。

このミニコミ紙は 2008 年 8 月に創刊 20 周年を迎え、町の 文化発展に大きく寄与している 活動である。

7

近藤一文(こんどう・かずふみ)

■「フレンドいかわ」創刊から現在まで

の思いからミニコミ紙の発刊を思い立ち、町内有識者に相談し編集委員会を立ち上げる。 第1回編集委員会 発行日を毎月15日に決定 第1回発行を8月15日に決定 編集委員(役職名は当時) 曽我部昭(前井川町長) 井上圀典(前井川町長) 井上傍典(前井川町教育長、平成19年まで編集委員長) 西井治夫(元中学校長) 内田善一(商工会長) 中滝徳久(元小学校長) 向井弘子(元高校教諭) キャッチフレーズ「あなたが作る 町の情報誌」 公正中立、偏った主義主張を排除することを基本方針とする。 B5判8ページ(創刊号のみ)10ページとした。

読者サービスの一環として「町内だけの情報誌」をと

月年8月15日 倉	刖
-----------	---

1990年 編集委員增員 岡本福治(元教育長/同和教育第一人者、現編集委員長) 白井実動(不動院住職) 宮内義典(地福寺住職) 阿佐正一郎(歯科医院院長)

991年 編集委員増員

堀江 亘 (元中学校長) 内田晴子 (元幼稚園長/婦人会長) 堀川忠子 (元小学校教諭)

1996年2月 91 号より体裁を A4 サイズ 8 ページ建てとし、パソコンにて自店でレイアウトから印刷まで行う。

同年7月 96号4コママンガ「友ちゃん」 登場

同年11月 100号発刊

1999年1月 126号発刊 この号より一部ページをカラー化

2003年

真鍋タニ子 (町婦人会連合会長/元保育所所長) 岸野邦彦 (町老人会連合会長/元小学校長)

2004年

土井清子(元井川中学校長/人権擁護委員/社会教育指導員)

2005年3月 2008年8月 創刊20周年

2011年6月 第275号発刊

■「なでしこまつり」について

1982 年、第1回井川町民祭なでしてまつりとして発足以来、実行委員長を首長が務め町職員が実務から準備、後片付けまで行う、どちらかといえば行政主導・主体型の町民文化祭であったが、平成18年合併によって、一変して行政は手を引き民間に丸投げの形となった。実行委員会では、継続は無理ではなかろうかとの意見が大半を占めたが、四半世紀ちかくにわたって続けてきた一大イベントを、ここで頓挫させるのは忍びがたいとの意見が出て継続を決定、近藤所長が実行委員長に推挙される。

暗中模索・試行錯誤を繰り返しながら25回目から民間主体・主導の形をとる。当初は参加者も少なかったが、年を重ねるごとに盛況となりつつある。



近滕所長ただいま編集中



編集委員の皆さんと 近藤所長(右から3人目)





フレンドいかわ 2008年8月15日 (第241号) 1、7ページ

波盆古く-